

塩釜圏域(宮城県) 総合水産基盤整備事業計画

1 圏域の概要

(1) 水産業の概要

① 圏域内に位置する市町村および漁業協同組合の概要

・当圏域は、東松島市、松島町、利府町、塩竈市、七ヶ浜町の松島湾地区を対象としており、古くから水産業を基幹産業として発展してきた。東日本大震災（以下「震災」という。）の津波でほとんどの漁業関連施設は甚大な被害を受け、漁業関係者等による早期復興に向けた取り組みを行っているが、圏域内の令和元年の陸揚量は震災前の水準の約7割までしか回復していない。

・当圏域には、沿海地区漁業協同組合として宮城県漁業協同組合（以下、宮城県漁協）（塩釜総合支所管内各支所）、塩釜市漁業協同組合が所在している他、業種別漁業協同組合として、塩釜地区機船漁業協同組合、宮城県近海底曳網漁業協同組合が所在しており、宮城県漁協の塩釜第一支所、浦戸支所、浦戸東部支所の3支所が（仮）塩釜地区支所として、令和5年の統合に向けて検討中である。

② 主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況（令和元年港勢）

・当圏域の主要漁業種類は、近海まぐろはえ縄、大中型まき網、遠洋かつお一本釣の沖合遠洋漁業を中心としており、これらは圏域全体の陸揚量の7割を占める。

・主要魚種は、その他のマグロ類4,300t、カツオ3,900t、サバ類3,500t、クロマグロ1,000tとなっている。なお、水産庁（令和3年度 国際漁業資源の現況）によれば、メバチ（中西部太平洋）の資源水準は中位であり、資源動向は最近5年については横ばい、マサバ（太平洋群）の漁獲量は最大持続生産量付近で、親魚量は目標管理基準値付近で推移となっている他、クロマグロ（太平洋）については資源水準が低位のため、近年のWCPFC及びIATTCによる厳しい漁業管理の影響で、過去と比べて低い漁獲水準となっているが、最近年の親魚資源量は歴史的最低水準から低位で増加しつつある。一方で、カツオ（中西部太平洋）の資源水準は高位であるものの、産卵親魚量は歴史的最低値水準にあり漁獲圧は増加傾向となっている。

・資源の減少対策として、各魚種の生産量調整を行っているが、特に、アワビ、アサリ、ヒラメ、ホシガレイを中心とした資源の管理と、種苗放流や漁場造成による資源増殖に取り組んでいる。

③ 水産物の流通・加工の状況

・圏域内の中心的な産地市場である地方卸売市場塩竈市魚市場が、流通拠点漁港である塩釜漁港（特定第3種漁港）に所在しており、近海まぐろはえ縄漁業で漁獲されたマグロを始めとする水産物は、ここを経由する流通形態となっている。

・当圏域の代表的な加工品は、練製品と冷凍加工品であるが、古くから練製品を主体とした加工業が営まれている。

・当圏域の輸出実績や具体的な取組は、民間企業により、加工原料としての東南アジアやEUへの輸出が行われている他、自治体と宮城県漁協が協働で輸出相手国に対する商談会も行っている。

④ 養殖業の状況

・当圏域の主要養殖漁業種類は主にのり類養殖であり、令和元年の陸揚量は4,100 tとなっている他、かき養殖（650 t）、わかめ類養殖（530 t）、こんぶ類養殖（280 t）が行われており、圏域全体の陸揚量の3割を占める。

・海面養殖業による主な水産物は、各漁港で陸揚・一次加工（乾ノリ、塩蔵ワカメ、むきカキ等）を経て、塩釜の漁協共販所に集約され、出荷される。

・いずれの漁業種も養殖漁場は松島湾周辺にある。ノリの種苗（カキ殻糸状体）は七ヶ浜（県漁協七ヶ浜水産振興センター）や県外から調達し、松島湾内で育苗した種網を生産、圏域内のみならず、県内全体に供給している。なお、干ノリ加工は各漁港で行われることが多い。ノリの共同の冷凍冷蔵施設を菖蒲田漁港、松ヶ浜漁港、桂島漁港で有している他、生産者の加工場に冷凍冷蔵施設が併設されている。ワカメの種苗は松島湾内で生産され、圏域内のみならず、県内全体に供給しており、陸揚げされた漁港で一次加工され出荷される。カキは松島湾内での天然採苗によるもので、圏域内のみならず、全国に供給され、各漁港で加工施設を有しており、古浦漁港、名籠漁港、磯崎漁港、桂島漁港、東名漁港、里浜漁港で冷凍冷蔵施設を併設している。

・ノリにおいては、全国的なブランド「みちのく寒流海苔」として知られており、生産したノリを毎年、乾ノリ品評会に出品している。74回を数える品評会の歴史のなかで毎年、優賞、准優賞の成績を収めたものを、皇室に献上し、地元や県外からも非常に注目されている。

⑤ 漁業経営体、漁業就業者（組合員等）の状況

・令和元年度港勢調査による漁業経営体数は358体、正組合員数は342人と、それぞれ震災前の約5割、6割と減少傾向となっている。

⑥ 水産業の発展のための取組

・漁船漁業のMSC（持続可能な漁業で獲られた認証水産物）やASC（環境に配慮した養殖生産）、MEL認証（水産物エコラベル制度）の取得、水産加工業者のHACCP取得を促進し、海外への輸出を視野に入れ国際競争力の強化を図る取り組みを行っている。現在、民間企業によるカツオ・ビンナガー本釣り漁業でMSC認証を取得している。

・塩竈市では、水産業、水産加工業の現状や流通及び消費動向を把握し、また、エンドユーザーやバイヤーへの調査を実施して、消費ニーズや現状の課題等を明らかにし、地産地消や大消費地への販路拡大を図るため、塩竈市水産物販売促進計画を策定している。計画では、大消費地における本市水産物・水産加工品の販路拡大、仙台圏及び地元における本市水産物・水産加工品の販路拡大に加え、新魚市場展示スペースに関する基本構想を策定しており、魚市場を訪れる消費者の水産物への関心を高め、水産業の信頼性向上や魚価、消費量の増加等を図るため、水産物の情報発信拠点を整備する。

・塩釜漁港において、プレジャーボート係留区域を指定しており、塩竈市観光物産協会や塩釜市漁協、宮城県漁協が指定管理者となり「海業」等の振興を図っている。

⑦ 水産基盤整備に関する課題

・当圏域の各漁港は、小型漁船の船揚場で台車が斜路のブロックの隙間や段差等で、漁船の船揚げに苦慮しており、危険な状況で作業を行っている。少子高齢化や漁業就業者数の

減少が進んでいることから、省力化・軽労化・就労環境改善対策が必要となっている。

- ・当圏域では、東日本大震災において、漁業者の減少や高齢化が進んでおり、干潮時の潮位変動が大きく、転落事故等も発生している。また、漁業活動中に災害により漁業者の転落が懸念されており、海上作業から速やかに陸上に避難できる施設が不足していることから避難施設の整備が必要となっている。
- ・震災により離職する漁業者や高齢化、重労働が敬遠されるなど、漁業に従事する人や漁船数は減少傾向にあり、漁港の施設や用地に余裕が生まれている。各漁港の生産力を十分発揮させ、安定した漁業生産等を行うために、それぞれの機能の分担・有効活用を図る必要がある。
- ・漁港施設の老朽化が進んでおり、維持管理や点検結果にかかる情報は今後も増加していくことから、漁港漁場施設の適切な管理とともに、機能保全の効率化が求められる。

⑧ 将来的な漁港機能の集約化

・集出荷機能の集約

塩釜漁港に沿岸漁船漁業の陸揚げ及び集出荷機能を集約する。

須賀漁港に浜田漁港のワカメの陸揚げ及び集出荷機能を集約化し、漁業生産活動の効率化を図る。

浜田漁港に須賀漁港のカキの陸揚げ及び集出荷機能を集約化し、漁業生産活動の効率化を図る。これらの集約により、港内をプレジャーボート係留水域として有効活用する。

・準備機能の集約

磯崎漁港に古浦漁港、名籠漁港の冷凍冷蔵施設、一次加工処理施設を集約化し、漁業生産活動の効率化を図る。

(2) 圏域設定の考え方

① 圏域タイプ	流通拠点型	設定理由；地方卸売市場塩竈市魚市場が、8割以上の水産物を集約する産地市場となっている。
② 圏域範囲	浜市～松ヶ浜漁港の松島湾地区全域 (東松島市、松島町、利府町、塩竈市、七ヶ浜町)	設定理由；全国の遠洋及び沖合漁業の基地である塩釜漁港が、水産物集約の中心となっている。なお、範囲設定は前回計画どおりで、漁業関係者ヒアリングで問題のないことを確認している。
③ 流通拠点漁港	塩釜漁港 特定第3種漁港	設定理由；圏域の中心となる産地市場、地方卸売市場塩竈市魚市場が所在し、周辺に水産関連産業が集約している。 属地陸揚量 15,127 t(圏域の約8割) 属地陸揚金額 74.7 億万円(圏域の約8割)
④ 生産拠点漁港		設定理由；

	室浜	一定の港勢を有し、生産地として中核的な役割を担っている。
	里浜	一定の港勢を有し、生産地として中核的な役割を担っている。
	東名	一定の港勢を有し、生産地として中核的な役割を担っている。
	寒風沢	一定の港勢を有し、生産地として中核的な役割を担っている。
	菖蒲田	一定の港勢を有し、生産地として中核的な役割を担っている。
	磯崎	一定の港勢を有し、生産地として中核的な役割を担っている。
	桂島	一定の港勢を有し、生産地として中核的な役割を担っている。
⑤ 輸出拠点漁港	塩釜	設定理由；圏域内の流通拠点漁港であり、既に水産加工品を中心に海外輸出が行われている。

(令和元年)

圏域の属地陸揚量(トン)	20,260	圏域の登録漁船隻数(隻)	1,142
圏域の総漁港数	20	圏域内での輸出取扱量(トン)	不明
圏域で水産物の水揚実績がある港湾数	1		

当該圏域を含む養殖生産拠点地域名	矢本、鳴瀬、宮戸、宮戸西部、東宮、菖蒲田(ノリ) ※生産量500t以上 鳴瀬、宮戸浦戸(カキ) ※生産量500t以上
対象魚種	ノリ、カキ
魚種別生産量(トン)	矢本：2,225t、鳴瀬：535t、宮戸：1,990t、宮戸西部：1,289t、東宮：2,546t、菖蒲田：826t(ノリ) 鳴瀬：1,692t、宮戸浦戸：836t(カキ)
魚種別海面養殖業産出額(百万円)	矢本：640百万円、鳴瀬：157百万円、宮戸：537百万円、宮戸西部：282百万円、東宮：576百万円、菖蒲田：195百万円(ノリ) 鳴瀬：198百万円、宮戸浦戸：101百万円(カキ)

2 圏域における水産基盤整備の基本方針

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

①流通拠点漁港等の生産・流通機能の強化

- ・漁港の集出荷機能等の再編・集約と広域浜プランに基づく地域の取組との連携として、各漁港の生産力を十分発揮させ、安定した漁業生産等を行うために、それぞれの機能の分担・有効活用を図る。
 - 塩釜漁港に沿岸漁船漁業の陸揚げ及び集出荷機能を集約する。
 - 浜田漁港に須賀漁港のカキの陸揚げ及び集出荷機能を集約する。
 - 須賀漁港に浜田漁港のワカメの陸揚げ及び集出荷機能を集約する。
 - 磯崎漁港に古浦漁港、名籠漁港の冷凍冷蔵施設、一次加工処理施設を集約する。
- ・高度衛生管理型荷さばき所の更なる拡大と冷凍冷蔵施設、加工・流通施設などの流通機能の強化として、流通拠点である塩釜漁港では太陽光発電システムによる再生可能エネルギーを導入した高度衛生管理型荷さばき所（魚市場）を平成 29 年に整備済みであり、安全と安心かつ高品質な水産物を提供することで、ブランド力を向上させると共に、輸出の拡大を図る。
- ・輸出促進の取組をハード・ソフト両面から推進していくにあたり、塩釜漁港では HACCP に対応した高度衛生管理型荷さばき所を有し、一本釣りによる冷凍カツオ・マグロを対象に冷凍水産物としては全国初となる EU-HACCP の認定を令和 3 年に受けている。また、塩釜魚市場水産加工業協同組合での HACCP 対応水産冷凍施の整備や、民間加工場でも EU-HACCP 認証が取得されており、引き続き流通の効率化、鮮度保持の強化を図る。
- ・流通コストの縮減対策として、地方卸売市場塩竈市魚市場の EU-HACCP の基準を満たす区域において、魚体選別機を導入することで軽労化及び効率化を図り、作業時間の短縮等を行っている。
- ・塩竈市にある水産加工業者で製造される加工品のデータベース化（水産品 ICT 化）を行うことで、産地間競争における独自性・優位性を確保し、これを足掛かりに流通の効率化、海外含む販路の拡大、ブランディングなどに取り組み、水産品の生産高向上を図っている。平成 29 年に本格運用開始した水産加工品の検索や企業情報の閲覧のできるウェブサイトには、現在 51 社が登録し商品数は 160 品に上る。
- ・上記の塩竈水産品 ICT 化事業の中で、海外販路拡大の取組として海外商談会への参加や輸出勉強会を実施し、塩釜地域の水産加工品の輸出体制の強化を図っている。水産品協議会メンバーや輸出モデル検討会委員、その他関係機関を対象に OFFJT 的な人材育成の場として輸出勉強会を開催し、輸出機運の醸成を図っている。

②養殖生産拠点の形成

- ・圏域計画において「養殖生産拠点」を新たに設定する。
- ・本圏域はノリ、カキ、ワカメ養殖における種苗生産供給拠点として重要な役割を担っている。
- ・水温などの環境変化を早急に把握するための海域環境観測システムの構築として、東名では ICT プイによる海域環境の観測を実施している。
- ・生産量拡大の目標値として、県の水産業の振興に関する基本的な計画（第Ⅲ期）（令和

3年度～令和12年度)で設定された養殖品目ごとの目標値の、現状値からの増加割合より養殖生産拠点ごとの目標値を定め、今後新たな整備を検討しつつ目標達成を目指す。

区分	産出額		産出額目標値 [百万円]		生産量		生産量目標値 [t]		産出額増加割合		生産量増加割合	
	現状値	中間 (令和7年)	最終 (令和12年)	現状値	中間 (令和7年)	最終 (令和12年)	R07	R12	R07	R12		
カキ	299	325	354	2,528	2,998	3,468	1.09	1.18	1.19	1.37		
ノリ	2,387	2,690	2,954	9,411	10,028	10,644	1.13	1.24	1.07	1.13		

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に適応した漁場生産力の強化

- ・藻場・干潟ビジョンに基づいた食害生物の駆除等のソフト対策と海藻が着生しやすい基質設置や干潟の造成等のハード対策として、松島湾では震災で消失した干潟造成を実施しており、アサリ増殖場としての活用を図っている。また、令和2年に策定された宮城県藻場ビジョンを踏まえ、新たに七ヶ浜地区でのハード対策として着定基質設置(藻場)、ソフト対策として食害生物駆除や播種・移植、栄養塩供給などの対策、モニタリングの強化を実施する。
- ・養殖種苗生産の安定化に向け、外海との海水交換路の確保(浚渫)や、アマモ場の再生に取り組む。

②災害リスクへの対応力強化

- ・大規模地震・津波の想定や沖波などの設計条件の点検・見直し結果を踏まえた漁港施設の耐震・耐津波・耐浪化、浸水対策として、流通拠点漁港において防波堤の耐震・耐津波強化の整備を実施する。
- ・流通拠点漁港である塩釜漁港において、水産物の早期再開のため、水産物の生産及び流通に関する事業継続計画(BCP)の策定・運用を推進する。
- ・ライフサイクルコストの低減を図る適切な機能保全計画の見直しとして、LCC平準化による最適化を行い、漁港または圏域・県全体のストック効果を発揮させるための計画的な取り組みを実施する。特に、桂島については離島航路の発着所となっているため、予防保全型の長寿命化対策を実施していくことで、離島航路の確保を図る。

(3) 「^{うみぎょう}海業」振興と多様な人材の活躍による漁村の魅力と所得の向上

①「^{うみぎょう}海業」による漁村の活性化

- ・漁港の利用適正化による活用促進として、須賀のプレジャーボートを浜田のPB係留施設に集約することで、漁港の利活用環境の改善を行う。
- ・漁港と地域資源を生かした増養殖や直販・交流など「海業」等の振興として、浜田漁港で、プレジャーボート対策を含む集客施設の整備計画を検討する。
- ・また、漁港機能の再編による寒風沢漁港での漁港の有効活用を検討する。
- ・塩釜漁港、磯崎漁港、桂島漁港、浜田漁港において、プレジャーボート係留区域を指定しており、県管理もしくは宮城県漁協の各支所が指定管理者となり「海業」等の振興を図っている。

②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

浜田漁港で集客施設の整備計画を検討する。

3 目標達成のための具体的な施策

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

①流通拠点漁港等の生産・流通機能の強化

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
塩釜	流通機能強化 ^{※1}	基盤整備	塩釜	特定第3種	○
浜田	流通機能強化 ^{※1}	基盤整備	浜田	第1種	
須賀	流通機能強化 ^{※1}	基盤整備	須賀	第1種	

※1 集出荷機能の集約による拠点漁港の整備

②養殖生産拠点の形成

地区名	主要対策	事業名	漁港・漁場名	種別	流通拠点
検討中					

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に適応した漁場生産力の強化

地区名	主要対策	事業名
七ヶ浜	藻場・干潟 ^{※2}	水産環境（一般）
七ヶ浜	藻場・干潟 ^{※3}	多面的機能

※2 ハード対策として着定基質設置（藻場）

※3 食害生物駆除や播種・移植、栄養塩供給などのソフト対策、モニタリングの強化

②災害リスクへの対応力強化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
塩釜	安全・安心 ^{※4}	流通基盤	塩釜	特定第3種	○
塩釜	早期再開 ^{※5}	流通基盤	塩釜	特定第3種	○
大浜	予防保全 ^{※6}	機能保全	大浜	第1種	
磯崎	予防保全 ^{※6}	機能保全	磯崎	第2種	
桂島	予防保全 ^{※6}	機能保全	桂島	第2種	
塩釜	予防保全 ^{※6}	機能保全	塩釜	特定第3種	○

※4 防波堤の耐震・耐津波強化の整備

※5 水産物の生産及び流通に関する事業継続計画（BCP）の策定・運用

※6 予防保全型の維持管理の実施

(3) 「^{うみぎょう}海業」振興と多様な人材の活躍による漁村の魅力と所得の向上

①「^{うみぎょう}海業」による漁村の活性化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
寒風沢	活用促進 ^{※7}	基盤整備	寒風沢	第1種	
浜田	活用促進 ^{※8}	基盤整備	浜田	第1種	

※7 港内用地を有効活用したウニ等の蓄養殖・肥育養殖の実施

※8 PB集約による施設整備、直販・交流など「海業」等の振興として集客施設の検討

②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
浜田	就労環境 ^{※9}	基盤整備	浜田	第1種	

※9 雇用機会の創出として集客施設の検討

4 環境への配慮事項

- ・当圏域は、特別名勝松島と県立自然公園松島の指定地域にある。松島湾は、沈降と浸食によってできた230余りの島々からなる内湾が特徴である。
- ・圏域内では、藻場群落の形成が確認されている場所もあることから、事業着手に際して環境調査を行い、藻場の保護と育成に配慮することのほか、希少生物等が確認された場合には必要な対策を講じるものとする。
- ・当圏域の流通拠点である塩釜漁港の地方卸売市場 塩竈市魚市場では、フォークリフトの電動化やLED照明の導入により、CO₂の排出量の削減に寄与している。

5 水産物流通圏域図

6 当該圏域を含む養殖生産拠点地域図

7 漁港ごとの役割や機能分担及び漁港間での連携の状況を示す資料

8 その他参考となる資料

宮城県 水産物流通圏域図 (塩釜圏域)

塩釜圏域

流通拠点型

流通拠点：塩釜漁港(特定第3種)

圏域総陸揚量：20,260t

圏域総陸揚金額：96.1億円

漁港20港、港湾1港

<機能集約>

準備機能、防災・減災機能(10年以内)

古浦、名籠 → 磯崎

<養殖生産>

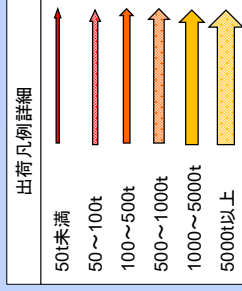
圏域養殖総生産量：5,552t

圏域海面養殖業総生産額：19.2億円

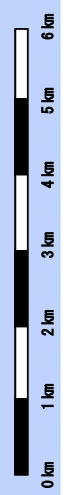
主要養殖魚種：ノリ

海面漁業

石巻圏域へ



- ：流通拠点漁港(うち輸出拠点港)
- ◎：生産拠点漁港(うち輸出拠点港)
- ：一般漁港
- ：港湾(漁業関係の利用がなされている主要な港湾のみ)
- ☆：産地市場
- ☆：漁業：主な漁業種(主な漁業種が大量(巻き網・底引き等)、採藻、採貝、魚籠の場合は示す)
- ↓：水産物集約(漁船陸揚げ)
- ↓：水産物集約(陸送)
- ↓：加工場・消費地への出荷(主な出荷先として、圏域内、圏域外の県内、県外を示す。輸出している場合は輸出先の国等を出来る限り示す。)
- ↓：養殖に係る水産物の流れ

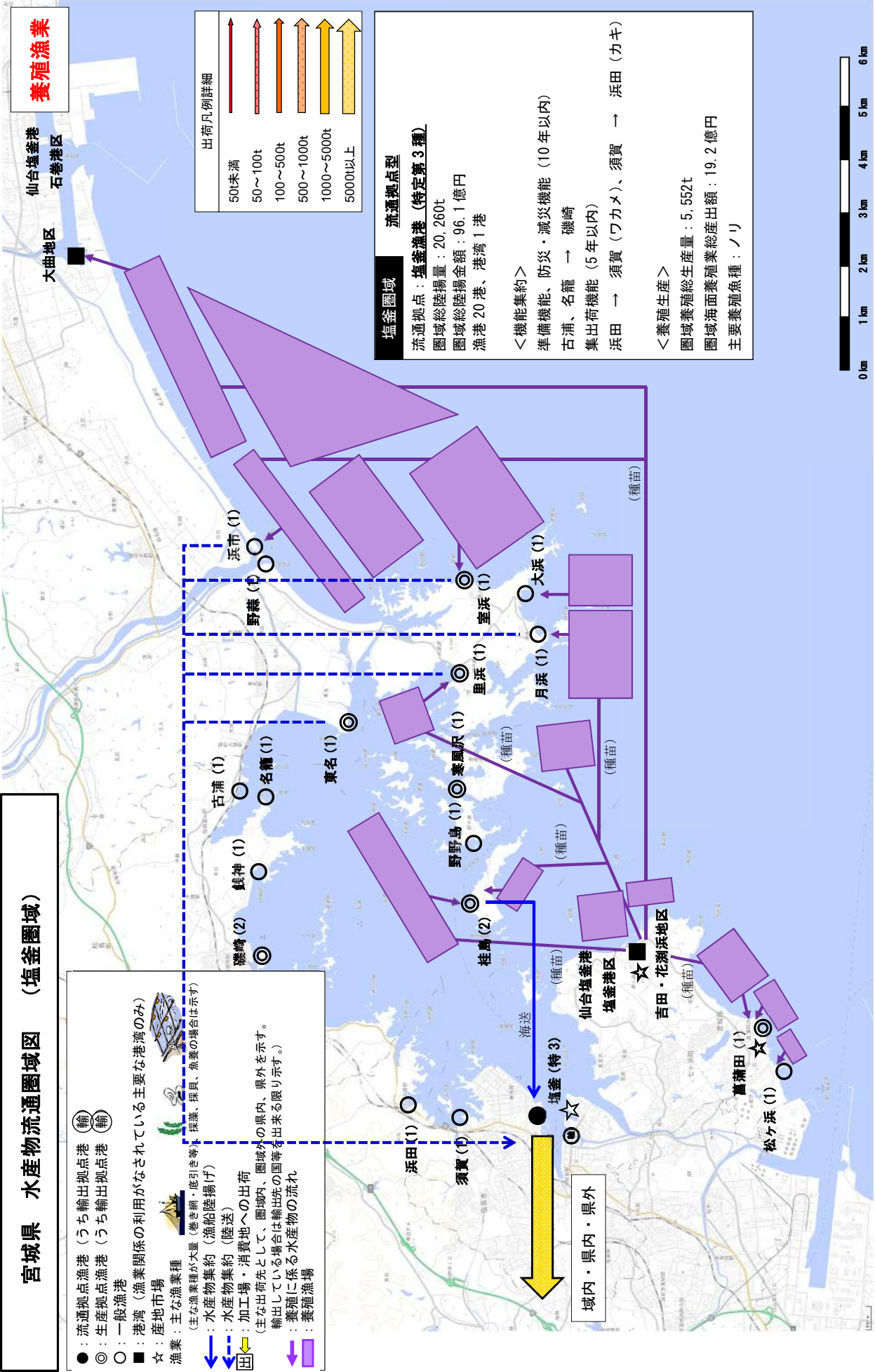


出典：地理院地図(国土地理院)

宮城県 水産物流通圏域図 (塩釜圏域)

- : 流通拠点漁港 (うち輸出拠点港)
- ◎ : 生産拠点漁港 (うち輸出拠点港)
- : 一般漁港
- : 港湾 (漁業関係の利用がなされている主要な港湾のみ)
- ☆ : 産地市場
- 漁業 : 主な漁業種
- ▲ : 水産物集約 (巻き網・底引き等)
- ▲ : 水産物集約 (漁船陸揚げ)
- ▲ : 水産物集約 (陸送)
- ▲ : 加工場・消費地への出荷
- ▲ : 輸出している場合は輸出先の国等を示す
- ▲ : 輸出している場合は輸出先の国等を示す
- ▲ : 養殖に係る水産物の流れ
- ▲ : 養殖漁場

(主な漁業種が大量 (巻き網・底引き等) 採漁、採貝、漁獲の場合は示す)



養殖漁業

仙台塩釜港
石巻港区

大曲地区

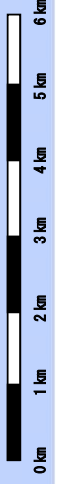
出荷凡例詳細	
50t未満	↑
50~100t	↑↑
100~500t	↑↑↑
500~1000t	↑↑↑↑
1000~5000t	↑↑↑↑↑
5000t以上	↑↑↑↑↑↑

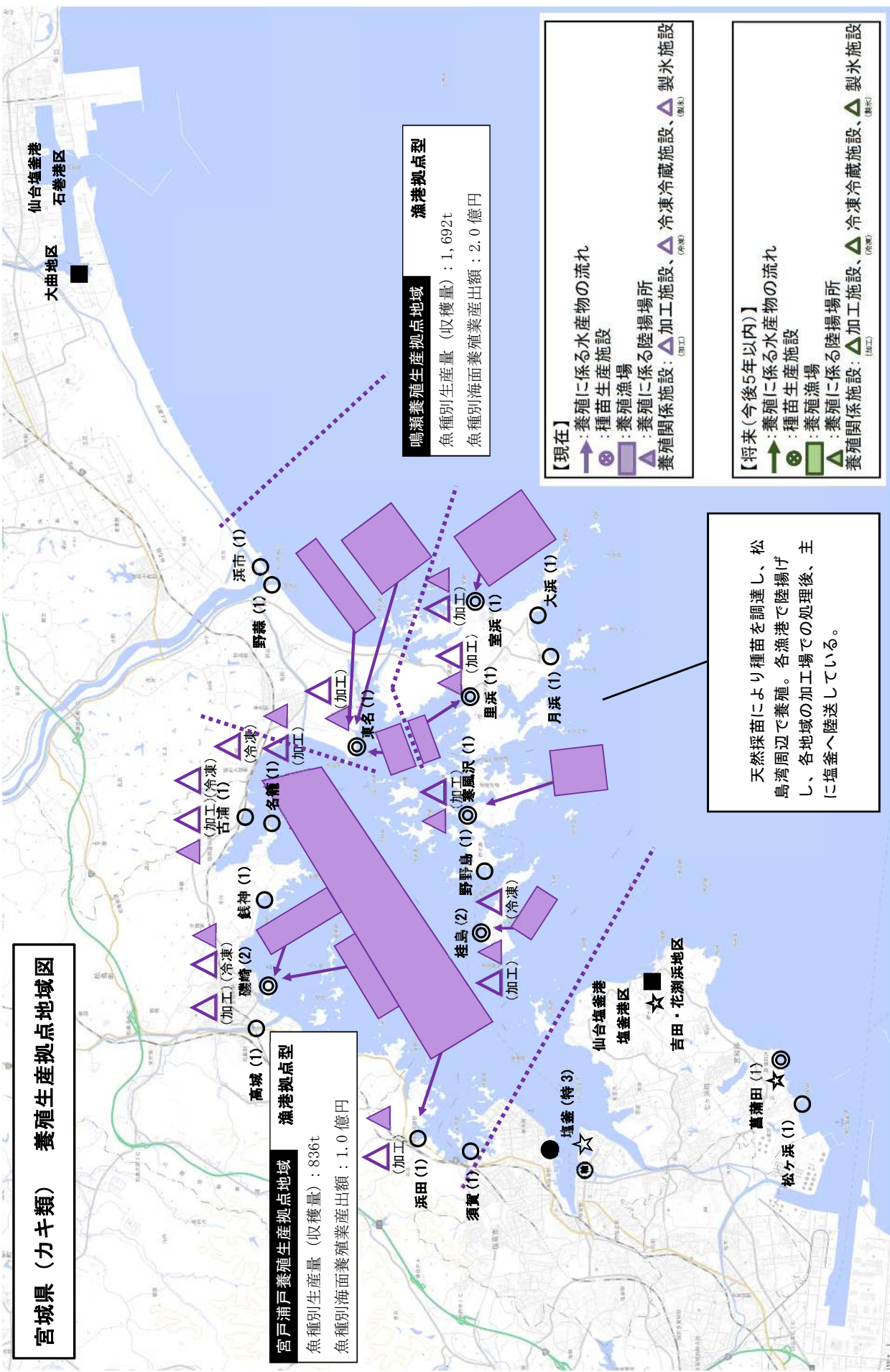
塩釜圏域 流通拠点型

流通拠点 : 塩釜漁港 (特定第3種)
 圏域総陸揚量 : 20,260t
 圏域総陸揚金額 : 96.1億円
 漁港 20港、港湾1港

<機能集約>
 準備機能、防災・減災機能 (10年以内)
 古浦、名籠 → 磯崎
 集出荷機能 (5年以内)
 浜田 → 須賀 (ワカメ)、須賀 → 浜田 (カキ)

<養殖生産>
 圏域養殖総生産量 : 5,552t
 圏域海面養殖業総産出額 : 19.2億円
 主要養殖魚種 : ノリ





宮城県（力キ類） 養殖生産拠点地域図

宮戸浦戸養殖生産拠点地域 漁港拠点型
 魚種別生産量（収穫量）：836t
 魚種別海面養殖業産出額：1.0億円

鳴瀬養殖生産拠点地域 漁港拠点型
 魚種別生産量（収穫量）：1,692t
 魚種別海面養殖業産出額：2.0億円

【現在】
 ↑：養殖に係る水産物の流れ
 ⊕：種苗生産施設
 ⊖：養殖漁場
 △：養殖に係る陸揚場所
 △：養殖関係施設：△加工施設、△冷凍冷蔵施設、△製氷施設

【将来（今後5年以内）】
 ↑：養殖に係る水産物の流れ
 ⊕：種苗生産施設
 ⊖：養殖漁場
 △：養殖に係る陸揚場所
 △：養殖関係施設：△加工施設、△冷凍冷蔵施設、△製氷施設

天然採苗により種苗を調達し、松島湾周辺で養殖。各漁港で陸揚げし、各地域の加工場での処理後、主に塩釜へ陸送している。

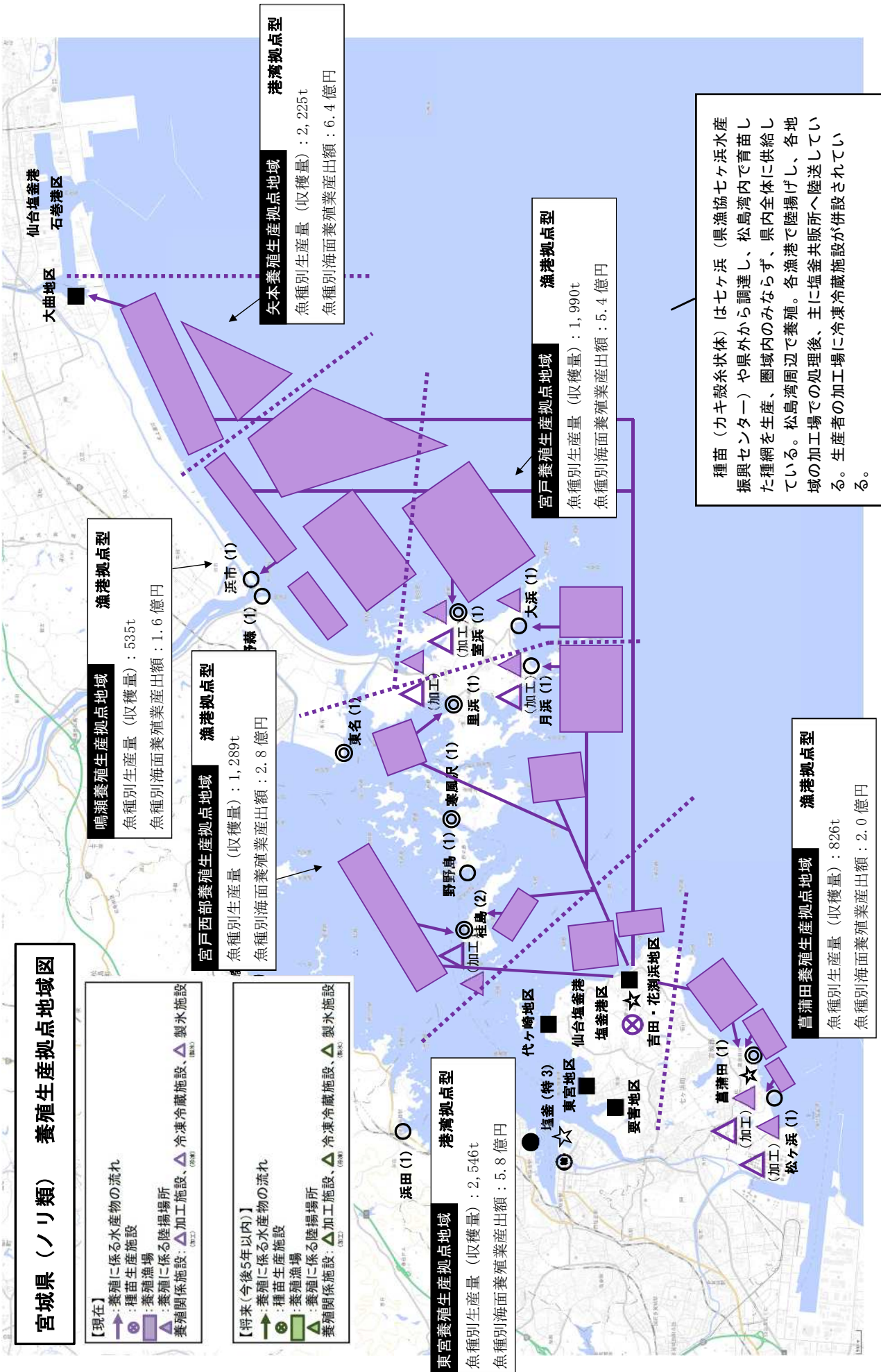
宮城県（ノリ類） 養殖生産拠点地域図

【現在】

- 養殖に係る水産物の流れ
- 種苗生産施設
- 養殖漁場
- 養殖に係る陸揚場所
- 養殖関係施設：加工施設、冷凍冷蔵施設、製氷施設

【将来（今後5年以内）】

- 養殖に係る水産物の流れ
- 種苗生産施設
- 養殖漁場
- 養殖に係る陸揚場所
- 養殖関係施設：加工施設、冷凍冷蔵施設、製氷施設



港湾拠点型
 矢本養殖生産拠点地域
 魚種別生産量（収穫量）：2,225t
 魚種別海面養殖業産出額：6.4億円

漁港拠点型
 宮戸養殖生産拠点地域
 魚種別生産量（収穫量）：1,990t
 魚種別海面養殖業産出額：5.4億円

滴港拠点型
 鳴瀬養殖生産拠点地域
 魚種別生産量（収穫量）：535t
 魚種別海面養殖業産出額：1.6億円

漁港拠点型
 宮戸西部養殖生産拠点地域
 魚種別生産量（収穫量）：1,289t
 魚種別海面養殖業産出額：2.8億円

港湾拠点型
 東宮養殖生産拠点地域
 魚種別生産量（収穫量）：2,546t
 魚種別海面養殖業産出額：5.8億円

滴港拠点型
 葛蒲田養殖生産拠点地域
 魚種別生産量（収穫量）：826t
 魚種別海面養殖業産出額：2.0億円

種苗（カキ殻糸状体）は七ヶ浜（県漁協七ヶ浜水産振興センター）や県外から調達し、松島湾内で育苗した種網を生産、圏域内のみならず、県内全体に供給している。松島湾周辺で養殖。各漁港で陸揚げし、各地域の加工場での処理後、主に塩釜共販所へ陸送している。生産者の加工場に冷凍冷蔵施設が併設されている。

宮城県 集出荷機能連携図 (塩釜圏域)

塩釜圏域

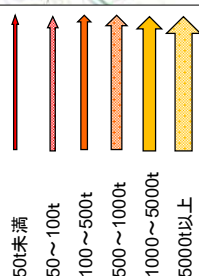
流通拠点型

圏域総陸揚量：20,260t

圏域総陸揚金額：96.1億円

漁港：20

出荷凡例詳細



海面漁業

石巻圏域へ

範囲D
石巻へ直接陸揚げ
または陸送し出荷

範囲A
塩釜へ直接陸揚げし出荷

範囲B
塩釜へ陸送し出荷

県内・県外

範囲B
塩釜へ海送し出荷

範囲C
七ヶ浜の市場に直接陸揚げしている

①集・出荷機能
● 現状の連携範囲
● 現状の中心地的な漁港
● 増養漁・養魚強化機能
● 防災・減災、避難機能

②連携機能
● 現状の連携範囲
● 漁業振興機能
● 防災・減災、避難機能

③増養漁・養魚強化機能
● 現状の連携範囲
● 現状の中心地的な漁港

④漁業振興機能
● 現状の連携範囲
● 現状の中心地的な漁港

⑤防災・減災、避難機能
● 現状の連携範囲
● 現状の中心地的な漁港

(※全機能共通)将来的な連携範囲
● 5年以内を目途に実施する連携範囲
● 5年以上10年以内を目途に実施する連携範囲
● 10年以上を目途に実施する中心地的な漁港

●：流通拠点漁港 (うち輸出拠点港)
○：生産拠点漁港 (うち輸出拠点港)
■：港湾 (漁業関係の利用がなされている主要な港湾のみ)
☆：産地市場
漁業：主な漁業種 (巻き網・底引き等)、採藻、採貝、魚籠の場合は示す)
●：水産物集約 (陸送)
●：水産物集約 (陸送)
●：加工場・消費地への出荷 (主な出荷先として、圏域内、圏域外の県内、県外を示す。輸出している場合は輸出先の国等を出来る限り示す。)



宮城県 集出荷機能連携図 (塩釜圏域)

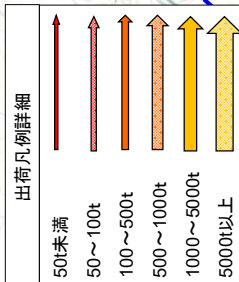
塩釜圏域

流通拠点型

圏域総陸揚量：20,260t

圏域総陸揚金額：96.1億円

漁港：20



養殖漁業

- ：流通拠点漁港 (うち輸出拠点港)
- ◎：生産拠点漁港 (うち輸出拠点港)
- ：一般漁港
- ：港湾 (漁業関係の利用がなされている主要な港湾のみ)
- ☆：産地市場

漁業：主な漁業種 (巻き網・底引き等)、採藻、採貝、魚養の場合は示す)

水産物集約 (漁船陸揚げ)

水産物集約 (陸送)

加工場・消費地への出荷

(主な出荷先として、圏域内、圏域外の県内、県外を示す。
輸出している場合は輸出先の国等を示す。)

範囲F
室浜、野森は浜市へ陸送し出荷

範囲G
浜田へカキの陸揚機能を集約の計画

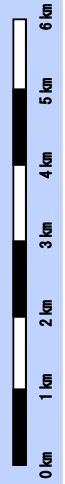
範囲H
須賀へワカメの陸揚機能を集約の計画

塩釜(特3)
塩釜へ海送し出荷(ノリ)

範囲E
塩釜へ陸送し、域内に出荷(ノリ)

- ①集・出荷機能：現状の連携範囲 (Blue dashed line)
- ②連携機能：現状の連携範囲 (Red dashed line)
- ③増設船・普及強化機能：現状の中心地的な漁港 (Green dashed line)
- ④海棠振興機能：現状の連携範囲 (Green dashed line)
- ⑤防災・震災、避難機能：現状の中心地的な漁港 (Purple dashed line)

(※全機能共通) 将来的な連携範囲
 ○：5年以内を目途に実施する連携範囲
 ◎：5年以内を目途に実施する中心地的な漁港
 ○：10年以内を目途に実施する連携範囲
 ◎：10年以内を目途に実施する中心地的な漁港



出典：地理院地図 (国土地理院)

宮城県 準備・減災・防災・避難機能連携図 (塩釜圏域)

塩釜圏域

流通拠点型

圏域総陸揚量：20,260t

圏域総陸揚金額：96.1億円

漁港：20

範囲A (減災・防災・避難機能)

被災時に塩釜漁港の給油、給水、給水施設を浜田、須賀、須賀漁港の漁船が利用する

範囲B (準備機能)

塩釜漁港の給油、給水施設を浜田、須賀漁港と共同利用

範囲B (準備機能)

古浦、名籠の冷凍冷蔵施設、一次加工処理施設を10年以内に磯崎へ集約化

① 備・出荷機能	② 連携機能	③ 増強型・著実強化機能	④ 漁業連携機能
● 現状の連携範囲	● 現状の連携範囲	● 現状の連携範囲	● 現状の連携範囲
● 現状の中心的な漁港	● 現状の中心的な漁港	● 現状の中心的な漁港	● 現状の中心的な漁港
● 防災・減災、避難機能	● 防災・減災、避難機能	● 防災・減災、避難機能	● 防災・減災、避難機能
● 現状の連携範囲	● 現状の連携範囲	● 現状の連携範囲	● 現状の連携範囲
● 現状の中心的な漁港	● 現状の中心的な漁港	● 現状の中心的な漁港	● 現状の中心的な漁港

(※全機能共通) 将来的な連携範囲
 ● 5年以内を目標に実施する連携範囲
 ● 5年以内を目標に実施する中心的な漁港
 ● 10年以内を目標に実施する連携範囲
 ● 10年以内を目標に実施する中心的な漁港



宮城県 海業振興機能連携図 (塩釜圏域)

塩釜圏域

流通拠点型
圏域総陸揚量：20,260t
圏域総陸揚金額：96.1億円
漁港：20

範囲A
浜田(カキ)、須賀(ワカメ)に陸揚機能をそれぞれ集約し、港内をプレジャーボート係留水域として有効活用する計画

●：流通拠点漁港 (うち輸出拠点港)
◎：生産拠点漁港 (うち輸出拠点港)
○：一般漁港
■：産地市場
☆：港湾 (漁業関係の利用がなされている主要な港湾のみ)
漁業：主な漁業種 (主な漁業種が大量 (巻き網、底引き等)、採藻、採貝、魚養の場合は示す)
→ (赤)：水産物集約 (漁船陸揚げ)
→ (青)：水産物集約 (陸送)
⇄ (黄)：加工場・消費地への出荷
(主な出荷先として、圏域内、圏域外の県内、県外を示す。輸出している場合は輸出先の国等を示す。)

① 集・出荷機能
● (赤)：現状の連携範囲
● (青)：現状の中心漁港
② 連携機能
● (赤)：現状の連携範囲
● (青)：現状の中心漁港
③ 増産・強化機能
● (赤)：現状の連携範囲
● (青)：現状の中心漁港
④ 漁業振興機能
● (赤)：現状の連携範囲
● (青)：現状の中心漁港
⑤ 防災・減災、避難機能
● (赤)：現状の連携範囲
● (青)：現状の中心漁港
(※全機能共通) 将来的な連携範囲
● (赤)：5年以内を目標に実施する中心漁港
● (青)：10年以内を目標に実施する中心漁港
● (黄)：10年以上を目標に実施する中心漁港

